

「まちを視る」岸和田市 FW 議事録

日時・場所	平成20年10月11日(土) 14:00~17:20 岸和田市
参加者	戸松、鎌田、岡村、小山、今中、友田、茂福、梶竹本(府)、藤本(岸和田市産業部 理事(府出向))(計10名)
テーマ	「まち歩き」をとおした、岸和田市の歴史・文化的資源の発信
視察場所案内等	蛸地藏駅 ⇒ 五風荘 ⇒ 岸和田城 ⇒ こなから坂 ⇒ 本町の街並み(紀州街道) ⇒ 天性寺(蛸地藏) ⇒ だんじり会館 ガイド: 岸和田ボランティアガイド 行 龍男氏 意見交換会: 岸和田ボランティアガイド 吉野久雄会長(本町在住) " 永谷裕久氏 岸和田観光振興協会 松井孝人事務局次長
記録者	茂福隆幸(寝屋川市)
説明内容	<p>① 地区の概要</p> <p>○面積約72.24㎡、人口204,815人(H18.1.1) 大正11年(大阪府内3番目)市制施行</p> <p>○寛永年間(17世紀初め)以降 岡部氏の城下町として発達、明治中期以降は紡績工業都市として発展。</p> <p>○「城とだんじりのまち」として有名となり、関西国際空港と大阪都心の間で、近年観光客や若者が訪れるようになった。</p> <p>○本町地区の歴史街道沿いは、江戸時代には岸和田城下で最も賑わう通りで、今日でも本瓦葺き、中二階、出格子などの伝統的造りの家並みとなっており、城下町の商業の中心地としてふさわしい重圧さを保っている。</p> <p>② 歴史、風土</p> <p>○「岸和田」の地名の由来は、南北朝時代に楠木正成の一族の和田高家が当時「岸」と呼ばれていたこの地に代官として派遣され、城を築き拠点としたことから「岸の和田殿」と呼ばれ、地名の起りとなった。</p> <p>○岸和田城 建設時期や建てた人は不明であるが、戦国時代末期に松浦氏の居城となり、その後、豊臣の時代に秀吉の叔父の小出秀政が城主となり、城下町</p>



五風荘から見た岸和田城

と城郭と天守閣を築造。その後、岡部氏が入城し明治維新まで13代にわたって岸和田藩5万3千石を治める。1827年に落雷により天守閣は焼失したが、昭和29年に鉄筋コンクリート造三層の天守閣が再建され、昭和44年に城壁と櫓が再建された。

○五風荘（国登録文化財）

岸和田の財閥、寺田利吉の旧邸宅で、旧岸和田城内の薬草園の跡地などに昭和4年から10年の歳月をかけて築造された約3000坪の回廊式の日本庭園。正門は奈良東大寺塔頭中性院表門を移築。日本建築の名家と三つの茶室がある。

○蛸地蔵駅

岸和田駅の次駅で、大正14年に築かれた南欧風の駅舎。天窓には蛸地蔵物語のステンドグラスがはめ込まれ建築物として貴重。

○紀州街道

大阪高麗橋を起点に住吉・堺・岸和田を経て和歌山に至る当時の幹線道路。江戸時代に紀州徳川家や岡部家の参勤交代のため整備された。

○だんじり祭り

1703年に藩主岡部長泰が、京都伏見稲荷を城内三の丸に勧請し、米や麦、豆、あわやひえなどの5つの穀物がたくさん取れるように（五穀豊穰）祈願し、行った稲荷祭がその始まりと伝えられている。



だんじり会館

③ まちの特徴

○だんじり

- ・82台のだんじりがあり、大きく8つの地区に分かれて祭礼を行う。
- ・だんじりを持つすべての町では、子どもからお年寄りまで年齢層ごとに役割が決められ、それぞれその役割を分担し、統一された組織として祭りが運営されている。
- ・祭りの特長は、他の山車のように慎重に角を曲がるのではなく、勢いよく走りながら直角に向きをかえ、定められた曳行路を何周も何周も駆け巡り、そして曲がり角ごとに「やりまわし」を行う。
昔は今日のような派手な「やりまわし」はなかった。
- ・昭和の終わりから平成にかけて、多くのメディアに取り上げられたこともあり、それまで、関西の一地方の祭であったものが、一気に全国区の祭へと大きな飛躍をとげた。長い伝統を誇る日本の著名な祭の多くが、

資金難や町衆のパワー不足のため、現状の維持と現状のまま傳承するのが困難な時代で、今でもだんじりを保有する町が年々増加し、その規模を拡大している。

○城

- ・大阪には大阪城の他、南の守りの役割として岸和田城と、北の守りの役割として高槻城があった。
- ・天守閣は一度は消失したが、市民の要望により昭和29年に再建され、現在はギャラリー・各種イベントなど観光振興の拠点として活用され、岸和田市のシンボルとなっている。

④ まちづくりの活動 (コミュニティ)

○本町地区のまちづくり

- ・平成6年5月23日に岸和田歴史的まちなみ保全要綱に基づく歴史的まちなみ保全地区に指定。

地区面積4.9ha。地区の基本計画、保全整備計画、環境の整備計画に基づき、建築物の建築等について助成措置を受けている。

- ・平成6年に「本町のまちづくりを考える会」が発足。会員数108名。本町地区の歴史的まちなみ保全と魅力あるまちづくりを目指し、専門家や行政と連携し、他団体との交流、美化運動、他地域の視察、研修会等の活動をしている。
- ・年に一度、紀州街道（本町）で「にぎわい市」を開催
- ・平成3～6年 紀州街道修景（歴史をめぐる遊歩道整備事業）
- ・平成7～8年 ポケットパーク整備
- ・平成5～15年 町屋修景 18件
- ・平成6～8年 まちづくりの館の整備

○岸和田ボランティアガイド

- ・平成13年に設立 会員17人
(男12人、女5人)

岸和田城周辺や久米田寺周辺の2地区で、名所旧跡を案内、説明して岸和田の歴史や文化に対して理解を深めてもらうことが目的

- ・申込のあった日時に1人からでも随時案内する。

交通費として1,000円徴収



まちづくりの館(本町地区)



説明風景(蛸地蔵駅前)

- ・ハード面の整備は結構出来ているが、まち歩きの集合場所や途中の休憩場所があればいい。
- ・市民が岸和田の財産の良さを認識し、まちに誇りと愛着をもつような仕掛け作りが必要。
- ・岸和田の持つ地域資源を観光に活かし、同時に、まちづくりのベースとなる地域社会の活性化、強化を行うべきである。
- ・本町のまちづくり活動は地域と市が協働で行っており、これからの発展が期待できる。
- ・蛸地蔵の話は岸和田の歴史を物語っており、現在に至る地域遺伝子の一つであり、蛸地蔵駅は隠れた一級建築物である。
- ・五風荘は立派な庭園と趣のある建物と景色であるが、値打ちのあるものを脈絡なく移築しているのには疑問がある。



五風荘



岸和田城

- ・だんじり祭りを支える町内会の結束が強く、住民は岸和田を愛し、地域外に流出した子弟もいつかは戻ってくるのは他の地域にはなく将来性がある。その反面よそ者は入りにくい状況となっている。

- ・良いものがピンポイントで残されているが、それらを買くも

のがなく、また訪れようと思う気持ちは薄い。

- ・だんじり祭りの印象はたくましくて生命力に満ちているが、低俗で野卑というイメージがある。京都の祇園祭や諏訪大社の御柱祭りは性格は違うが部外者は好ましい印象を持っている。
- ・生活者（特に若い世代）の呼び込み、呼び戻しと定住化対策が必要。



FW風景(こなから坂)

提
言

- ・2時間で回れるコースづくりをボランティアガイドや市民参加で行う。
- ・観光ポイント、おいしい店、面白い土産店、思い出の場所などが載っているイラストマップ作りを実施。
- ・ホームページで簡単にボランティアガイドを予約できるシステム作り。
- ・ボランティアガイドの交通費の仕組み（500円/人として、その内250円/人数分をボランティアガイドが受け取り、残りを観光協会に渡し、次のコースガイド作成に使う。）
- ・一定のまとまりのある地域に育てる施策を実施（住民によるワークショップにより地区計画や景観計画を普及する）
- ・統一感のあるサインや説明板の設置
- ・ファサード補助制度（建物更新時に街並みの調和をつくる）
- ・グランドワークトラストなどの組織を構築し、空き家を借り受け、ファサードを保ちながら、若者が定住できる家に改造して貸し出すような仕組みづくり。
- ・岸和田の観光化を考える場合、紀州街道沿いの歴史的まちなみが重要な要素になる。
- ・家内工業的な地場産業（繊維、工芸品等）の振興と一体となった観光化を考える。
- ・旧城下町と現在を重ね合わせた地図などを天守閣に常設展示するなどし、観光客と同時に住民の意識を高める。
- ・だんじり会館の他に、南海電車と協働して岸和田駅を拠点とした展示コーナー等を設置する。
- ・コースマップやボランティアガイドの充実を図る
- ・視察途中に買い物、食事などが出来る店が必要。
- ・岸和田のまちのたたずまいとだんじりをはじめとする今日の風習を生み出した町衆の歴史が語られていないので、NHKのドキュメントに取り上げてもらったり、歴史作家に岸和田を舞台とした物語を書いてもらう。
- ・本町地区だけが独立して活動するのではなく、他の拠点との連携を図る。



ミーティング風景(だんじり会館内)